

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>1) 現行授業の目標と教育効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネス教育分野では、AIの進化、多様な価値観・世界観が溢れだした経済社会において、有為な人材として活躍できるスキルの育成・定着・創出を目指した基礎的知識・技能の習得、意思決定能力向上に資することを心がけ授業を展開した。 ・ 経営学分野では、企業個々の社会的役割の意味、経済の成長を支える企業活動の意義を理解するとともに、経営資源の効率的分配、経営戦略の立て方など、企業人としてのスキルの向上に資することに心がけて授業を展開した。 ・ 簿記会計分野では、記帳技術によってもたらされる会計情報の意味と役割を知ること、価値と評価の尺度としての「数値」の重さを理解するとともに、経済活動や企業経営における「数値」を正しく扱えるスキル向上に資することに心がけ授業を展開した。 <p>2) 自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネス教育分野、経営学分野とも、SDGsが目指す目標との関わりを意識しながら展開した。社会情勢の変化に目を奪われることなく、予見できる能力の醸成が必要である。 ・ 簿記会計分野は、「学びの目的」が理解されず、「簿記の記帳技術」の習得ではない、Stakeholderによる「会計情報」の活用の視点からのアプローチへの工夫・改善が必要である。 <p>3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアスキル、1・2年ゼミナール、卒論演習 <ul style="list-style-type: none"> 1年生は、思考力を高める課題やデータサイエンスに関する課題を課し取り組み深めたが、学生個々の学力差に関わらない課題の設定が必要であった。 2年生は、個々の専門的な研究が進められるよう、参考図書を選考して指導の改善を図り、一定の成果を得たが、そのために労力が割かれ、卒業論文の指導が十分に行き届かなかった。 ・ 地域プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 沼田町「そらち自然学校」、拓殖大学商学部「北の恵みプロジェクト」とも、学外での外部連携プロジェクトであり、先方と情報共有に課題が見られ計画段階から柔軟性が必要であった。 ・ 地域特別演習 <ul style="list-style-type: none"> 「旭川食べマルシェ」に初出店したが、準備段階から学生主体の活動にすることで、学生が獲得すべき成果がより高められた。
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>1) 学生の状況と授業評価</p> <p>担当する多くの授業が、4年制大学への編入を前提とした科目であることから、次の学年での学びにつなげられるよう、専門分野の基礎的内容の理解と習得とを目指した授業を展開している。学生には毎時間に書き込み式のプリントを配布、授業終了前には小テストを課している。配布したプリント、小テストは毎回回収、点検し返却しているが、学生個々の個性ある記入の工夫を見るかぎり、授業に集中していることがわかる(学生による評価は概ね良い、4.0を超える)。</p> <p>2) 教育改善への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネス教育と経営学分野については、社会科学としての学問的理論をおろそかにせず、次代を予見し創造できるスキルの獲得、思考・判断力の基礎となる社会背景の分析力を支える知識の習得と意思決定につながる情報活用能力の育成に努める。 ・ 簿記会計分野については、記帳技術に囚われがちな指導から、導き出される「数値」の役割の理解力向上に重点を置いたマネジメントシステムからの視点での会計情報処理能力の習得に努める。 ・ 「主体的、対話的で深い学び」の強化に努め、探究する能力向上に努められるよう、学生自身の自発的な学びを喚起する指導、ケーススタディによるワークショップなど指導方法の考案・実施するなどして、学生個々の能力伸長に努める。 ・ 2030年を目指した「有為な人材育成」実現の為に、学生の創造力や先見性を高めるために、「ビジネス活動の三方よし」の思想、「人間力」「学士力」「社会人基礎力」などのGeneral Skill、グローバル化を担う「SDGs」の理解と実践力を、科目目標と内容を吟味しながら教育の改善を図る。
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間PowerPointにより作成したスライドを利用し授業を展開し、学生には書き込み式プリントを配布している。集中して授業に臨み、併せて専門用語や意味の理解力の向上につながるように工夫している。学生からは好評を得ているが、誤字・脱字の改善に向けた声(アンケート結果)もあり、一層の改善が必要である。 ・ 毎時間終了前に小テストを実施している。授業内容の理解度や論述技術の向上をねらいにしている。次時には解答・解説を行うため、復習的要素もあり好評を得ている。 ・ 「答を書く」ことはできても、最適解である「答をつくる」ことが苦手の学生が多い。正誤が目的ではないが、「誤」へ関心が薄く、「正」を理解する力、「正」を定着する学びの工夫・改善が必要である。
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<p>2020年度 硬式テニス部</p> <p>2022年度 人生100年時代の社会人基礎力グランプリ出場学生指導</p> <p>2023年度 ログハウスプロジェクト指導</p> <p>2023年度 旭川・北の恵み食べマルシェ出店指導</p> <p>2023年度 拓殖大学紅陵祭学生交流団引率</p>
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	<ul style="list-style-type: none"> 内閣府の「人間力」、経済産業省の「社会人基礎力」の獲得は重要な教育課題である。特に学生とビジネスと繋ぐ専門的な実践力の基盤とも言える。経済は「成長」、経営は「持続」が前提であり、個別の視点ではなく国や世界、Marketの視点で意思決定できるSkillの獲得に必要な取り組みが急がれる。2030年を目指す「SDGs」と自国の優位性を求める国家間紛争の有り様を考え、Society5.0、第四次産業革命が進むビジネス社会における、有為な人材として活躍する学生を目指した指導力向上を考察する。 会計処理能力の基礎である「記帳技術」、「収益・費用」「純資産」などを元にした「財務諸表分析」などの知識を持たずに「会計ソフト」が多用されている。会計情報活用能力の重要性を理解し、簿記会計の本質を身につけた社会人の育成を目指す。 			
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	<ul style="list-style-type: none"> 経営資源である「ヒト、モノ、カネ、情報」のうち、「ヒト」とは創造力・意思決定能力を持った、企業人（ビジネス活動における有為な人材）であり、「カネ」とは「持続・発展」させる資金（資本であり利益）である。この2つを「ビジネス教育分野」としてとらえ、「社会人」としての「人間性」のSkillをもった、「経営管理：ビジネスマネジメント」に不可欠な「会計情報活用能力」にかかわって、大学教育における教育的意義や目的を研究し、キャリアスキルとビジネス実務との関係、マネジメントとマーケティング、資金調達とM&A等、地球規模での大きな変化が進行する社会での有為な人材育成のため指導力向上を目指す。 			
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 (2) 学内 (3) 学外			
4 資格・特許等 (主要3件以内)	中学校教諭一級免許（職業） 高等学校教諭I種免許（情報） 高等学校教諭二級免許（商業）			
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(学術論文：査読無)				
ネットワーク環境の活用に関する研究	共著	2002年3月	北海道立教育研究所 平成13年度研究紀要	「教育の情報化プロジェクト」によって進められるネットワーク環境を、有効に活用する情報教育の方策を提言した。
教科「商業」におけるコンピュータの活用に関する研究	共著	2004年3月	北海道立教育研究所 平成15年度研究紀要	経営情報科目群「情報処理・ビジネス情報・文書デザイン・プログラミング」の学習指導計画と指導教材を提案した。
オンライン実習用教材の開発に関する研究	共著	2005年3月	北海道立教育研究所 平成16年度研究紀要	遠隔地の高度な資源（教材）と教室とをネットワークで接続・活用した学びの充実に向け、教材を作成し提案した。
「ほっかいどうスクールネット」の利用に関する研究	共著	2006年3月	北海道立教育研究所 平成17年度研究紀要	ビデオコミュニケーション機能等の拡張性の実証実験の報告。遠隔授業等の映像系ツールの利活用を提案した。
校務の情報化の推進に関する研究	共著	2012年3月	北海道立教育研究所 平成23年度成果報告	校内LAN整備とともに、アプリケーションに依存しない「文書の標準化」によるデジタルデータの活用を提案した。
北海道の教育情報通信ネットワーク	単著	2012年3月	千葉商科大学経済研究所 View & Vision No.34	北海道が進めている「教育の情報化」に向けた取り組みを紹介すると共に、情報教育の在るべき姿を提言した。
ほっかいどうスクールネットのCMS導入に関する研究	共著	2013年3月	北海道立教育研究所 平成24年度成果報告	「校務の情報化」による担当者の負担軽減（学校Webページの更新作業）や効果的な校務処理の手法を提言した。
高等学校における「情報教育」の役割について～審議会答申等から～	単著	2013年3月	札幌学院大学教職課程委員会編 SGU教師教育研究第27号	情報化への対応として求められ続けている「情報活用能力」。学校教育への期待を答申等から読み解き、対応を提言した。
(その他)				
本校の科目「総合実践」における学習指導について	共著	1994年1月	北海道高等学校長協会商業部会・北海道商業教育第36号別冊	ACOS-IIを活用した、ネットワーク型の2クラス同時展開の「総合実践」の現状と課題を報告し、導入検討を提案した。
本校の科目「課題研究」における「産業現場実習」の現状について	単著	1999年11月	北海道高等学校長協会商業部会・北海道商業教育第42号	学習指導要領改訂による新科目「課題研究」の先取り実施の内容を報告。今後の課題を提言した。

学習指導要領と商業教育	単著	2002年12月	北海道高等学校長協会商業部会・北海道商業教育第45号	社会の変化に追随してきた商業教育を総括するとともに、「ビジネス教育」への変化と求められる能力を提言した。
地域と共に歩む定時制高校を目指して～コミュニケーション能力を育む取り組み	単著	2008年3月	日本教育公務員弘済会・研究助成論文集	小集団で学ぶ定時制生徒の学びの場を地域に広げ、様々な大人との関わりの中で自己実現を図る取り組みを紹介した。
「情報活用能力」を考えるー情報モラルと言語活動ー	単著	2012年3月	北海道高等学校長協会商業部会・北海道商業教育第54号	臨時教育審議会答申以降、「情報化社会」を支える「情報教育」が果たす役割について、商業教育の視点で提言した。
教科「商業」における科目「情報処理」の指導ー共通教科「情報」との関わりー	単著	2013年3月	北海道高等学校長協会商業部会・北海道商業教育第55号	新設された教科「情報」の指導目標を分析するとともに、科目「情報処理」における今後の指導の在り方を提言した。
北海道高等学校長協会商業部会の人材育成等の取り組みと課題	単著	2019年10月	全国商業高等学校長協会（秋季総会）	北海道の商業教育の現状と課題を明らかにしつつ、今後の商業教育への期待と在り方を提言した。

研究業績（過去3カ年分）				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
0	0	0	0	無	有

学内運営業績	
1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)	2020年度 入試広報委員会
	2021～2022年度 学生・地域国際交流委員会委員長、入試委員
	2021～2023年度 農学ビジネス学科地域振興ビジネスコース長、自己点検・評価委員、FD委員
	2023年度 入試戦略タスクフォース

学外活動業績	
1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を 通しての活動 (主要10件程度)	2020年4月～2021年3月 深川市立地適正化計画策定・都市計画マスター見直し専門部会
	2020年6月～現在 深川市都市計画審議会委員（会長）
	2021年7月～現在 深川市緑の基本計画見直し専門部会委員（委員長）
	2022年4月～現在 北海道深川西高等学校評議委員
2 学会・学術団体等の活動 (主要10件程度)	2000年4月～現在 日本商業教育学会 北海道部会（監事）
	2007年4月～現在 日本商業教育学会 全国会員
	2018年4月～現在 千葉商科大学教育研究会 副会長